

四つのテスト (Four-Way Test)

真実かどうか (Is it the truth ?)

みんなに公平か (Is it fair to all concerned ?)

好意と友情を深めるか (Will it build goodwill and better friendship ?)

みんなのためになるかどうか (Will it be beneficial to all concerned ?)

職業人としてのロータリアンの心構えを、ロータリーの倫理基準から具体的に記述したものが「ロータリー倫理訓」だとすれば、それをロータリアンのみならず一般の職業人にも理解できるように、簡潔かつ的確にまとめたものが「四つのテスト」です。

ハーバート・テラーは、倒産に瀕していたクラブ・アルミニウム社の社長に就任し正しい営業活動を行えば必ず会社が再建できると考え、「四つのテスト」を示しました。同社の業績は改善を続け、_年後には借金は完済、5年後には株主に多額の配当金を分配するまでになりました。

1954年、彼がR I 会長に就任したとき、その版権がロータリーに譲渡されました。四つのテストは世界各国の言葉で翻訳され、広く活用されています。

「四つのテスト」の解釈

◆四つのテスト (Four-Way Test)

「事業を繁栄に導くための四通りの基準」ならば、当然“Four-Way Tests”と複数形になります。これが単数形なのは事業を繁栄に導くためには、四通りの基準を一つずつクリアーすればいいのではなく、四つ纏めたものを一つの基準として、そのすべてをクリアーしなければならないことを意味します。

◆真実かどうか (Is it the truth ?)

「嘘偽りがないかどうか」という意味です。真実というのは「__%の真実」という言葉が示すように、人間の心を通じたアナログ的判定であるのに対し、事実とは有ったか無かったかの二者択一を迫るデジタル的判定ですから、ここでは「事実」という言葉を用いるべきでしょう。

◆みんなに公平か (Is it fair to all concerned ?)

“fair”は公平ではなく公正と訳すべきです。公平とは平等分配を意味するので、例え贈収賄で得た“unfair”不正なお金でも平等に分ければ、それでよいことになります。

“All concerned”は“All”だけが訳されており、肝心の“concerned”が省略されています。この“concerned”は取引先をさすのは明白です。従ってこのフレーズは「すべての取引先に対して公正かどうか」ということを意味します。

◆好意と友情を深めるか (Will it build goodwill and better friendship ?)

“goodwill”は単なる好意とか善意を表す言葉ではなく、商売上の信用とか評判を表すと共に、店の暖簾や取引先を表します。すなわちその商取引が店の信用を高めると同時に、よりよい人間関係を築き上げ、取引先を増やすかどうかを問うものです。

◆みんなのためになるかどうか (Will it be beneficial to all concerned ?)

“Benefit”は「儲け」そのものを表す言葉です。ただし、売り手だけが儲かったり、また買い手だけが得をしたのでは公正な取引とは言えません。その商取引によって、すべての取引先が適正な利潤を得るかどうか問題なのです。

(出典：ロータリーの源流 RI2680 地区田中毅 PDG)

「四つのテスト」の複製並びに使用

四つのテストを複製あるいは使用する唯一の目的は、人間関係における高度の道徳的水準の向上を図り、それを維持することである。複製は販売や利益を増すための広告と結び付けてはならない。しかしながら、商社、団体または公共機関の人間関係のすべてが四つのテストの方針に沿って実施されることを願って真剣に努力していることを説明するような方法としてならば、書簡箋やその他の印刷物に使用してもよい。四つのテストの複製はすべて上記の形式で作成されなければならない。

編集：ロータリー情報研究会